日 本 国 際 教 育 学 会

JIES NEWSLETTER

December 2013　No.25

ニューズレターダイジェスト

○　学会長挨拶
○　第 24 回研究大会報告
○　大会収支報告
○　第 24 回総会議事録
○　決算報告と予算案
○　2013-2014 年度役員一覧
○　事務局だより
○　紀要『国際教育』第 20 号原稿募集
○　2014 年春季研究会のお知らせ
○　第 25 回研究大会のお知らせ
○　2014 Conference Information

第 24 回大会　公開シンポジウム
(2013 年 9 月 29 日　日本大学)

学会長挨拶

第 24 回大会を終えて

会長　岩崎 正吾（早稲田大学教育・総合科学学術院）

日本国際教育学会は、1990 年 8 月に設立されて以来、本年度で第 24 年目を迎えました。激変し、混迷する近年の国際情勢の中で、日々の些事に忙殺されつつも、未来への確かな見通しをもつべく、研鑽を怠らず、研究の歴史をまた一つ積み重ねてこられた会員の皆様に敬意を表したいと思います。

研究と教育に従事する者として、日々の努力と研鑽の成果を発揮する重要な場の一つが研究大会ですが、9 月 28 日（土）と 29 日（日）の両日にわたって、日本大学で開催された第 24 回大会が大きな成功を修めましたことを会員の皆様とともにお喜び申し上げます。開催までに大変ご尽力下さいました、羽田積男大会実行委員長及び富田純喜事務局長をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。天候にも恵まれ、爽やかな初秋の息吹を感

じる緑に囲まれた桜上水の地で、国際教育の新たな展開と発展のためにきわめて充実した時間を共有できたことに対しまして、改めて日本大学の関係者の皆様に感謝申し上げる次第です。

さて、私も会長を仰せつかり２年目となりました。まだ短い間かもしれませんが、これまでを振り返り、学会活動が少しでも前進しているとすれば、忙しい中にも惜しみないエネルギーを注いで下さっている佐藤千津副会長、金塚基事務局長及び山崎直也紀要編集委員長をはじめとする理事の皆さんや事務局幹事の皆さんのお陰だと思念するところです。

今回の大会では、課題研究が 2 本、公開シンポジウムが 1 本、そして自由研究が 23 本でした。私の参加することのできた課題研究、自由研究、そして公開シンポジウムを通して私なりに総括できることは、質の高い報告と発表が繰り広げられ、鋭い議論が展開されたということです。課題研究Ｉでは、昨年に引き続いて「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究２−アファーマティブ･アクションと先住民族学校をめぐる現状と課題−」というテーマで、海外からはオーストラリアのモナシュ大学とロシア連邦サハ共和国の民族学校研究所から、2 人の研究者を招聘するとともに、国内からは宇都宮大学の廣瀬隆人先生にご登壇頂き、各国の先住民族をめぐる興味深い報告が行われました。また、課題研究Ⅱでは、「外国につながる子どもの教育・支援に大学がどうかかわるか」というテーマの下に、4 人の研究者によって、大学で教鞭をとる多くの会員にとって参考になる喫緊の課題への問題提起が行われました。さらに、公開シンポジウムでは、「学校における国際理解教育の実践と課題」というテーマで、日本大学の渡部淳先生をモデレーターとして、主に高校で国際理解教育の実践に当たられている 3 人の先生とモンゴル国立大学の研究者による現場での最先端の取り組みと課題について熱心な討議が行われました。司会、報告者及び参加された会員の先生方の熱意と息吹の伝わる良い大会になったと思います。

ところで、昨年の「第 23 回大会を終えて」の中で、国際教育学の本質として、教育における多様な価値の承認と少数言語をも含めた多文化主義・多言語主義の要請について言及したことがあります。多文化主義にはいくつかの流れと系譜があり、多言語主義は背景の異なる国においては母語の使用が幸福につながらない厳しい現実のあることも重々に承知しています。言語的多様性を保持した公共空間の形成という多言語主義の理念は、未だ萌芽的段階にあると言えるのかもしれません。キャメロン（イギリス首相）は、「国としての多文化主義は失敗した」と発言し、「多文化主義国家のドクトリンは、様々な文化がお互いに干渉せず、主流文化からも距離をおいて存在することを推奨してきた。このようないわば隔離されたコミュニティが我々の価値観と正反対の行動をとることすら許容してきた」（2011 年 2 月 5 日ドイツでの講演）と述べています。また、それ以前にメルケル（ドイツ首相）も、「多文化主義の概念は機能しておらず、移民たちはドイツ社会に融合するために、もっと努力をするべき」（2010 年 10 月 28 日）と述べています。その意は「ドイツ語を学び、文化的な孤立状態から脱け出してドイツ社会に溶け込むべきだ」とするものです。国家政策の推進と国のあり方に第一義的に責任を負っている「指導者」として、統合がうまくいかない事態に焦る気持ちも分からないではありません。しかし、「隔離されたコミュニティ」という言辞に垣間見えるキャメロンの言う多文化主義とはどのような多文化主義なのでしょうか？また、メルケルはその発言の故に、ジャーナリストや研究者達から厳しい批判が浴びせられましたが、彼女の言う「文化的な孤立状態」とは、「主流文化」のみが「文化である」と言っているようにさえ聞こえます。私たち研究者は、こうした政治家の発言でさえ、問題提起の一つとして受けとめ、自己の批判的思考を鍛えて行かなければならないと思います。

最後になりますが、日本国際教育学会がますます発展するよう、引き続き頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

第 24 回 大 会 報 告

１．日本国際教育学会　第 24 回大会（2013 年秋季研究大会）報告

大会実行委員長　　羽田　積男　　（日本大学）

日本国際教育学会第 24 回大会は、2013 年 9 月 28 日（土）・29 日（日）の両日、東京都世田谷区内の日本大学文理学部 3 号館 5 階を会場として開催されました。

課題研究Ⅰ:「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究（2)」

懇親会の折、大会実行委員長としての挨拶でも申し上げましたが、今年は過去に経験したことのないほどの暑さ、大雨、大型台風そして竜巻などに見舞われました。大会を開催する会場校としては、ひたすら自然の猛威だけは避けたい気持ちで準備を進めてきました。

さて、大会初日は、午前中に 2 件の学会企画の課題研究発表が行われました。課題研究Ⅰ「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究（2)」では、オーストラリアのゼーン・マ・レーア氏の先住民族のリーダーシップ開発について、ロシア・サハ共和国のセミョーノワ・スヴェトラーナ氏は少数民族の母語・母文化学習と多言語・多文化の問題が、それぞれ取り上げられました。課題研究Ⅰの継続的な研究が大きな成果を収めていることを実感致しました。この部会では逐次通訳をお願いしたため思わぬ時間を要し、討論の時間などが十分でなかったことを会場校として申し訳なく思っております。

課題研究Ⅱ「外国につながる子どもの教育・支援に大学がどうかかわるか」では、4 会員による、岩手大学、山形大学、福島大学、静岡県立大学などの取組みが披露され、学校や地域に密着した事例の報告は、身近な国際教育の課題を提示したものでありました。

午後には、３部会からなる自由研究発表があり、多様な国と地域の幅広い教育課題について報告がありました。発表件数の半数以上が大学院生であったことは、若い研究者の広まりを大いに実感致しました。

2 日目の午前には、会場校の設定になる公開シンポジウム「学校における国際教育の実践と課題」が開催されました。国際教育に取組む学校現場の報告を、関根真理・啓明学園中学高校、早川則男・中村高校、和田俊彦・跡見学園高校の 3 先生が報告し、さらにモンゴル大学オユンツェツェグ氏によって日本における経験が語られました。４氏の現場からの報告だけをもって現在の学校における取組みのすべてを語ることはできないとしても、持続的で自立的な取組みは大きな広がりと深さを持ったものであったと理解致しました。それゆえ、今後の課題も大きなものであるにように考えました。

午後には、前日と同様に 3 部会からなる自由研究発表がありました。特に第 5 分科会では、共同研究の発表があり、アラスカにおける先住民族への教育政策について 4 会員が議論を繰り広げました。各報告の内容は、課題研究Ⅰにも繋がるものでありました。

懇親会は、初日の総会終了後、3 号館 1 階「コスモス」にて開催されました。オーストラリア、サハ共和国からの招聘の先生方、学会役員の先生方、会員の皆様、若い大学院生、そして会場校の大学院生や若手 OB などの参加を得てにぎやかな懇親会になりました。

今回の参加者総数は、学会会員 188 名中の 62 名、その他の参加者総数 39 名、総合計で

101 名でした。自由研究の発表件数は 23 件、その内共同研究 1 件、病気による欠席 1 件という大会全容となりました。

最後に、ご参加いただいた課題研究 I の招聘発表者の先生方、会員の皆様、大会の開催にお力添えをいただいた学会理事会及び事務局の皆様、大会会場校の教職員、大学院生及び OB の皆様、公開ンポジウムのモデレーターを引き受けて下さった会場校の渡部淳先生、私立中高の先生及びモンゴル国立大学の先生など、多くの皆さんに深く感謝を申し上げたく存じます。ありがとうございました。

付記
第 24 回研究大会の「発表要旨集録」は、まだ残部がございます。ご希望の方は、郵送料 240 円分の切手を同封の上、日本大学文理学部の大会事務局までお申込みください。

2. 秋季大会の感想：日本国際教育学会第 24 回大会に参加して

牛渡 亮（東北大学大学院）

社会学畑で育った私にとって、教育学畑の学会に参加するのはこれが初めてでした。そのため、今回の秋季大会は驚きと発見に満ちていました。

何より印象的だったのは、多様なナショナリティを持つ研究者が世界各地の様々な地域を対象とした研究報告を行いながらも、教育という大きな問題関心のもとに結びついていることでした。今回私はアラスカの先住民族教育に関するグループ報告を行いましたが、それに対してロシアやニュージーランドの先住民族教育を研究されている先生方からご指摘をいただき、アラスカとの共通点やその独自性をより深く理解することができました。部会でも懇親会でも、これまであまり関心を向けたことのなかった国々の教育問題に触れることで目が開かれる思いでした。

しかしその反面、豊かな国際色のゆえに、部会全体あるいはシンポジウム全体を貫く共通の問題を意識することが難しく、なかなか議論を深められなかったという反省もあります。社会学の分野でも、研究領域の細分化あるいは蛸壺化が指摘されて久しいですが、研究する国や地域あるいは研究対象の特殊性という言葉に安易に落とし込むのではなく、研究相互の対話を促進するような姿勢が必要だという決意を新たにしました。

ともあれ、大学院生や若手研究者を育てようという「教育」的で温かな雰囲気に満ちた日本国際教育学会秋季大会に参加することができて、大いに刺激になりました。大会事務局ならびに開催校の関係者の方々には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

YANG, Wu-hsun (National Chi Nan University, Taiwan)

On September 28~29, 2013, it was a great honor and enjoyment to attend the 24th Japanese International Education Society (JIES) conference held at the College of Humanities & Sciences, Nihon University. As one of the members living overseas, it was thankful to receive the notification and application form from Professor Sekio Hada, the organizer of the conference. It was also impressive that there were 2 special issues, 1 open symposium and 23 presentations concentrated in 2 days. Personally, I was interested in the Special Issues 1, “ International

Comparative Study on Securing Aboriginal People's Education Right", which invited Professor Zane Ma Rhea from Australia and Professor Svetlana Semenova from Russia as keynote speakers delivering wonderful speeches and engaging in a heated discussion with other members. Moreover, it was another honor to be arranged to present at the same session with Professor Sekio Hada. He shared the experiences about what American research universities are doing in regard to student learning outcomes and survey after graduation. This kind of research is very important to student recruitment and university management. In the last decade, the Japanese and Taiwanese government as well as universities are also investing more research resources in this topic in order to improve quality of teaching and university management.

Everything was wonderful in this conference with beautiful campus, excellent classrooms, and delicious Japanese food. I hope there will be more sessions presented in English in order to attract more international researchers and students to be members of JIES.

3. 第 24 回大会収支報告

単年度収支	
収入総額	591,007
支出総額	588,965
差引残高	2,042

残額は、次期大会校への郵送料などに充当予定。

収　入

費　目	収入額	備考
大会参加費	186,000	事前34名　当日28名　計62名
懇親会費	175,000	事前17名　当日18名　計35名
大会運営補助	200,000	日本大学文理学部 50,000円　国際教育学会 150,000
広告費1/2	20,000	啓朋出版・学文社　各10,000円
祝金	10,000	啓朋出版　10,000円
利息	7	8/19銀行6円　10/1郵貯1円
合　計	591,007	

支　出

費　目	支出額	備考
郵送費	28,330	大会案内発送等(350、26,400)　次期事務局物品(1,580)
消耗品費	58,576	封筒2,793、980　ハガキ12,500　切手　30,000　文具7,040、1,500　日大研究室物品3,700
印刷費	123,480	発表要旨集
懇親会費	157,500	参加者45名＋院生・スタッフ13名＋日大関係者若干名
弁当代	25,600	28日：800円×スタッフ13名　29日：800円×スタッフ14名　800円×シンポ登壇者5名
会員控室茶菓子代	8,609	コーヒー・紅茶等
謝礼費	153,000	大学院生運営スタッフ報酬　12,000×9名　公開シンポ登壇者謝礼 9,000×5名
大会事務局反省会	33,870	院生・スタッフ含む
合　計	588,965	

4. 日本国際教育学会第 24 回総会議事録

日時：2013年9 月28 日(土) 13:45-14:45
場所：日本大学文理学部3号館5階3505教室

開会の辞
　金塚基事務局長より、開会の辞があり、大会開催校等に対する謝辞があった。出席者、委任状の合計が過半数に達せず、総会開催要件を満たしていないため、学会規則第3項に基づき、仮決議とし、総会終了後1か月以内に異議が出されない場合は本決議とみなすことが説明された。
会場校挨拶
　羽田積男理事より挨拶があり、参加者に対する謝辞等があった。
会長挨拶
　岩﨑正吾会長より挨拶があり、大会開催校の関係者への感謝の意が述べられた。
議長団選出
　自・他薦が無かったため、事務局より田中真奈美会員（東京未来大学）と中島久朱会員（杏林大学非常勤講師）が推薦され承認された。

Ⅰ．報告・承認・決議事項
1.　2012年度（2012年8月1日～2013年7月31日）事業報告
（1）学会（会員数）の現況
　金塚事務局長より、資料１に基づき報告された。2013年度から国内、国外の会員枠を設けていないこと、また、昨年度と比較して会員数が減少した要因として除籍会員等を処理した点が補足説明された。
（2）2012年度活動報告
　金塚事務局長より、資料2に基づいて2012年度の学会の活動について報告があった。
（3）2012年度決算報告
　金塚事務局長より、資料3に基づいて報告があった。
（4）2012年度会計監査報告
　金塚事務局長より、資料3に基づいて8月22日から9月10日にかけて監査が行われたとの報告があり、かつ、桑原清会計監査から確認の報告があり承認された。
（5）紀要編集委員会報告
　山﨑直也紀要編集委員長より、資料4に基づいて紀要第19号の発行について報告がなされた。「書評」の部分は「図書紹介」との訂正があった。本日、会費納入者には受付で配布しているとの連絡があり、前号よりも紙質が向上し、前号同様にISBNを取得して発行されていることが補足説明された。
（6）紀要電子化推進委員会報告
　欠席の大迫章史電子化推進委員長に代わり、金塚事務局長より資料5に基づいて報告があった。
2.　役員等の変更について
（1）退任に伴う理事の補充について
　岩崎会長より、グレゴリー・プール理事の退任・退会に伴い、前回の役員選挙結果で次点であった裘暁蘭（上海社会科学院青少年研究所）会員が理事として委嘱されることになったと説明があり承認された。また、田中真奈美事務局次長（東京未来大学）の退任により、後任に若園雄志郎会員（宇都宮大学）が就任することが報告され承認された。

（2）各種委員会委員について

岩崎会長より、ロバート・アスピノール会員の退会に伴って欠員となった紀要編集委員に新井浅浩会員（城西大学）が委嘱されることが報告され承認された。また、アスピノール会員が兼務していた学会賞委員の欠員については、江原裕美理事が適任者を推薦する予定であることが説明された。

3．教育学関連学会連絡協議会への加盟について

岩崎会長より、4月20日の結成大会参加の報告があった。当日は55学会の参加があり、本学会も今後体制を整えて進めていく予定である旨の報告があった。

4．その他

特になし。

Ⅱ．審議事項

1．2013年度（2013年8月1日～2014年7月31日）事業計画

（1）2013年度活動計画

金塚事務局長より、資料6に基づいて報告があり、承認された。前年度と異なる点として、１の3）「学会名簿を作成し、会員相互の研究交流の促進を図る」、3の6）「教育関連学会との連絡協議会への加盟」について補足説明された。

（2）2013年度予算

金塚事務局長より、資料7に基づいて報告があり承認された。前年度までの学会費の納入状況が向上したため、来年度の会費収入を例年並みに設定したとの補足説明があった。

2．学会規則第6条の改正について

担当の佐藤千津副会長より、資料8に基づいて改正する学会規則第6条4項と8項について報告があり、承認された。これにより、事務局長を理事の中から選出することが可能となり、特任理事の規定も同時に改正されるとの説明があり承認された。

3．選挙管理委員の選任について

佐藤副会長より、資料9に基づいて選挙管理委員に栗栖淳会員（国士舘大学）、田中達也会員（川口短期大学）、前田崇会員（千葉大学）、茂住和世会員（東京情報大学）が選出されたことが報告され、承認された。

4．2014年春季研究会の開催校について

岡田昭人実行委員長（欠席）に代わって実行事務局のマシフラホン会員（東京外国語大学院生）より挨拶があり、概要が説明され、承認された。懇親会等の詳細については、後日学会ホームページへ掲載することが補足説明された。

5．第25回研究大会の開催校について

岩崎会長より、同志社大学で開催予定であったがプール会員の退会により同校での開催が不可能となったことにより、若園事務局次長の勤務先である宇都宮大学で行われることが報告された。若園事務局次長から挨拶があり承認された。

6．その他

特になし。

議長団解任

金塚事務局長より、議長団の田中会員、中島会員に謝辞が述べられ、議長団が解任された。

閉会の辞

金塚事務局長より閉会の辞があり閉会された。

（文責：井谷泰彦、西村芳彦、大谷杏）

5. 2012年度(23期) 決算報告 及び 2013年度(24期)予算案

日本国際教育学会 2012年度(23期) 会計決算・監査報告
(2012年8月1日から2013年7月31日)

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,643,917	1,946,641	
会費	900,000	2,167,000	正会員174万円、学生会員40万4千円、その他2万3千円(過年度分を含む)
利子	200	0	
紀要販売	60,000	14,940	既刊3000円×4冊 新刊2940円×1冊
寄付金	0	0	
雑収入	0	147,632	大会開催補助費余剰金
合計	2,604,117	4,276,213	

支出の部

費目	予算	決算	備考
交通費	100,000	73,730	事務局・紀要編集交通費補助
消耗品費	40,000	45,194	はがき代・封筒代・文房具など
郵送費	100,000	117,810	紀要発送・メール便など
会合費	40,000	73,875	理事会会場費・弁当代
大会開催補助費	180,000	180,000	2012年度大会開催補助費
庶務費	60,000	17,071	振込手数料など
謝礼費	20,000	15,300	アルバイト代
印刷費	700,000	665,000	紀要印刷料・複写費
予備費	50,000	27,615	サーバー維持・管理費
雑費	0	0	
次年度繰越金	1,264,117	3,010,618	
25周年積立金	50,000	50,000	2012年度分
合計	2,604,117	4,276,213	

25周年積立金

費目	予算	決算
前年度繰越金	150,000	150,000
今年度積立金	50,000	50,000
合計	200,000	200,000

次年度繰越金(収入－支出分)

	金額
郵便局【普通】	0
郵便局【会費納入用】	2,764,618
銀行【普通】	0
現金	246,000
合計	3,010,618

上記の通り報告致します。

2013 年 8 月 22 日　　事務局長 金塚 基

監査の結果、正確であったことを認めます。

2013 年 8 月 22 日　　会計監査 宮本 美能

2013 年 9 月 10 日　　会計監査 桑原 清

日本国際教育学会 2013年度（24期）予算案
期間 2013年8月1日から2014年7月31日）

収入の部

費目	予算	詳細
前年度繰越金	3,010,678	
会費	900,000	正会員×75口 学生会員×25口
利子	200	郵便振替口座利子
紀要販売	30,000	機関・個人購読 3000×10口
寄付金	0	
雑収入	0	
収入合計	3,940,878	

支出の部

費目	予算	詳細
交通費	100,000	事務局・紀要編集・会計監査交通費補助など
消耗品費	40,000	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	紀要発送・メール便代など
会合費	40,000	理事会・紀要編集委員会の会場費・弁当代など
大会開催補助費	180,000	大会開催補助費150,000 春季研究会開催補助費30,000
庶務費	60,000	コピー・手数料
謝礼費	20,000	アルバイト代など
印刷費	700,000	紀要印刷・編集費650,000 ニューズレター50,000 印刷費
予備費	50,000	サーバー維持・管理費など
次年度繰越金	2,600,878	
25周年記念企画積立金	50,000	2013年度分
支出合計	3,940,878	

25周年記念企画積立金

前年度繰越金	200,000	2009年度分・2010年度分・2011年度分・2012年度分

6. 2013年－2014年度 日本国際教育学会役員一覧

役職	氏名	所属	担当	国籍
会長	岩﨑正吾	早稲田大学		日本
副会長	佐藤千津	東京学芸大学	規程、国際交流	日本
理事	牛渡淳	仙台白百合女子大学	研究	日本
同	江原裕美	帝京大学	春季研究会（2013年）	日本
同	大迫章史	仙台白百合女子大学	ニューズレター	日本
同	岡田昭人	東京外国語大学	広報、春季研究会（2014年）	日本
同	羽田積男	日本大学	秋季研究大会（第24回）	日本
同	平岡さつき	共愛学園前橋国際大学	規程	日本
同	前田耕司	早稲田大学	研究	日本
同	山﨑直也	国際教養大学	紀要編集	日本
同	裘暁蘭	上海社会科学院青少年研究所		中国
同	山口アンナ真美	北海道教育大学（非常勤）	ニューズレター	ブラジル
同	楊武勲	国立暨南国際大学	国際交流	台湾
特任理事	鄭任智	早稲田大学（非常勤）		日本
事務局長	金塚基	東京未来大学		
事務局次長	若園雄志郎	宇都宮大学	ホームページ他	
同	西村貴之	首都大学東京	学会名簿	
事務局幹事	井谷泰彦	早稲田大学（院生）	理事会議事録	
同	大谷杏	早稲田大学（院生）	理事会議事録	
同	西村芳彦	早稲田大学（院生）	理事会議事録	
同	孫儀	早稲田大学（院生）	会計	
同	張鵬	早稲田大学（院生）	会計	
	宮崎敦子	早稲田大学（院生）	会計	
会計監査	桑原清	北海道教育大学		
同	宮本美能	東北大学		
名誉理事(国内) 名誉理事(国外) 顧問				

各種委員会

紀要編集委員会委員長	山﨑直也	国際教養大学		
同副委員長	太田　浩	一橋大学		
同　委員	新井浅浩	城西大学		
同	黒田千晴	神戸大学		
同	斉藤泰雄	国立教育政策研究所		
同	坂内夏子	早稲田大学		
同	玉井康之	北海道教育大学		
同	渡部孝子	群馬大学		
同 幹事	谷口利律	日本学術振興会		
選挙管理委員会委員	栗栖　淳	国士舘大学		
同	田中達也	川口短期大学		
同	前田　崇	千葉大学		
同	茂住和世	東京情報大学		
学会賞選考委員会委員長	江原裕美	帝京大学		
同　委員	前田耕司	早稲田大学		
同	森岡修一	大妻女子大学		
同	楊武勲	国立暨南国際大学		
同　幹事	若園雄志郎	宇都宮大学		
紀要電子化推進委員会委員長	大迫章史	仙台白百合女子大学		
同　委員	小川佳万	東北大学		
同	白幡真紀	元・東北大学（院生）		
同　幹事				
同　幹事				

事 務 局 だ よ り

1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい.

所属変更等にともない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら，至急事務局長までメール(kanatsuka.motoi@tokyomirai.ac.jp)等にてご一報下さい。

2. 新入会員紹介

2012 年度第 2 回～2013 年度第 1 回理事会で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。（順不同）

氏名	所属
加藤由里子	お茶の水女子大学院生
平尾亮子	首都大学東京院生
中村健士郎	東京外国語大学院生
頼英鳴	東京外国語大学院生
高博杰	聖心女子大学院生
小林忠資	名古屋大学院生
ビルンボス・イオニアス	東京外国語大学院生
秦東興	名古屋大学院生
林佳代	東京外国語大学院生
韓韡	名古屋大学院生
星野晶成	名古屋大学留学生センター
宇城靖子	帝塚山学院大学
平塚儒子	帝塚山学院大学
十亀侑子	東京外国語大学院生
トフタミルザエヴァ マシフラホン	東京外国語大学院生
渡辺由紀	一橋大学
牛渡亮	東北大学院生
工藤瞳	京都大学院生
黒木貴人	広島大学院生
井場麻美	東北大学院生
飯島千鶴子	元早稲田大学院生
辻好文	東京外国語大学院生
西村芳彦	早稲田大学院生

日本国際教育学会紀要『国際教育』第 20 号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第 20 号の発刊に際し、自由投稿論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2014 年 3 月 1 日必着）。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿して下さい。なお、投稿原稿の募集に関しては、本学会公式ウェブサイト（http://www.jies.gr.jp/）の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

１．投稿要領（論文・その他）

（１）投稿資格

投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。

（２）投稿論文（等）のテーマ

論文（等）のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。

（３）投稿原稿の要件

① 投稿原稿は、口頭発表の場合を除き，未発表のものに限る。
② 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
③ 他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。
④ 前号に論文（等）が採用された者の連続投稿は原則として認めない。
⑤ 本投稿要領に反する原稿は受理できない。

（４）投稿原稿の種類

① 研究論文：国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果であり、独創性のある実証的または理論的な論考。
② 研究ノート：論文に準じ、断片的に得られた研究成果や調査成果であり、特に新しい知見、萌芽的な研究課題、少数事例、新しい調査・研究方法、などの発見・提起に関する考察で発展性のあるもの。
③ 調査報告：国際教育に関する調査の報告であり、調査の目的と方法が明確で、なおかつ調査結果の分析と解釈が妥当で資料的価値が認められるもの。
④ 教育情報：国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報で、速報性と話題性の観点から研究上の価値が認められるもの。
⑤ 資料紹介：国際教育の参考となる資料の紹介であり、国際教育の研究と実践においてその資料を広く共有することの意義が認められるもの。

（５）原稿の様式

① 原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、Ａ4 判用紙を使用することとする。
② 和文、中文は、1 行 40 字×40 行(1,600 字)で印字する。英文はダブル・スペース 22 行とする。
③ 執筆分量は下表の通りとする。

投稿原稿の別	ページ数制限
論文（Research Paper）	和文 10 ページ以内 英文 23 ページ以内 中文　6 ページ以内
研究ノート（Research Note）	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文　3 ページ以内
調査報告（Research Report）	
教育情報（Research Information）	
資料紹介（Data）	

④ 英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 4th Edition に準拠する。

⑤ 題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 字以内、英語の場合は 15 words 以内とする。

⑥ 原稿にはページ番号を付す。

⑦ 審査の公平を期するため、提出する原稿において「拙著」「拙稿」の表現や、研究助成や共同研究者・研究協力者等に対する謝辞など、投稿者名が判明するような記述は行わない。

⑧ 投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。

（６）原稿送付方法

1) 投稿原稿は、原稿と要旨を各 3 部（うち 2 部は匿名。複写可とする）提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。
2) 別紙（A4 判）に、投稿原稿種の区分、原稿の題目、氏名、所属・職名、連絡先（住所、電話、メールアドレス）を記入して 1 部添付する。
3) 和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4×1 枚以内。字数は上記規定に準拠する)を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。
4) 英文要旨にはその日本語訳を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。
5) 提出後の原稿の差し替えは認めない。また原稿は返却しない。
6) 投稿する論文（等）と内容の面で重複する部分を含む論文（等）を既に発表ないし投稿している場合は、その論文（等）のコピーを 1 部添付する。

（７）原稿送付期限

投稿原稿は 2014 年 3 月 1 日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正のうえ再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。再審査の場合、定められた期間内での原稿修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿（ハードコピー）とともに電子ファイル原稿（英文要旨を含む）も提出すること。

２．問い合わせ先／原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会事務局
〒010-1292　秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2
国際教養大学　山﨑直也研究室気付
E-mail: yama708@aiu.ac.jp

ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS
CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 20

Submissions to the 20th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2014. Authors making submissions in English should review the following guidelines. Any manuscripts not conforming to this procedure shall not be acceptable. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES's website (http://www.jies.gr.jp/) before submission.

1. Conditions for accepting manuscripts
   (1) Manuscripts must be original work of the author(s).
   (2) Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not been published already, nor are they under consideration for publication elsewhere.
   (3) Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.
2. Submission
   (1) Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than twenty-three pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
   (2) Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. An electronic version should also be included.
   (3) A cover sheet should include the category of the manuscript (choose one from this list: research paper; research note; research report; research information; data), title, author's name, author's affiliation, mailing address, telephone/fax number, and e-mail address.
   (4) A completed manuscript should be submitted and it cannot be returned or replaced once submitted.
   (5) All English manuscripts must include a Japanese abstract that is no longer than one page in length (A4 size).
   (6) For pagination, use Arabic numerals.
   (7) The manuscripts should not have any textual references to the author(s). References to the authors names should be blacked out. The acknowledgements should not be included at the time of submission.
   (8) Electronic-only versions of manuscripts will not be accepted.
3. Style and format
   For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association.
   Example:
   Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.
   Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.
4. Decision to accept
   All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee

reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient. Once the manuscript is accepted for publication, the author should submit the revised electronic version (including Japanese abstract).

5. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected.

Please send all submissions by postal mail to:

Dr. Naoya Yamazaki
Akita International University, Yuwa, Akita-City, 010-1292, Japan
Inquiries about the journal may be directed to Dr. Yamazaki by e-mail (yama708@aiu.ac.jp).

日本国際教育学会紀要『国際教育』第 20 号

「2014年春季研究会推薦論文」投稿要領

日本国際教育学会紀要『国際教育』第20号に掲載する「2014年春季研究会推薦論文」を募集いたします。投稿される方は以下の要領に従って投稿して下さい。投稿資格は、「2014年春季研究会」で発表を行った会員のうち、2014年春季研究会実行委員会から優秀発表者として推薦され、かつ投稿を希望する方に限られます。また当該年度までの会費を完納していることが条件となります。投稿要領に反する原稿は受理できませんので、投稿原稿の送付期限や執筆分量をご確認下さい。なお、投稿に際しては本学会公式ウェブサイト（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/）の「学会紀要」のページで「紀要編集規程」とあわせて、投稿要領に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

１．投稿要領

（１）論文のテーマは春季研究会での発表と同一のものとする。

（２）論文の内容は発表内容に基づき、春季研究会での質疑応答の成果を反映させたものとする。

（３）投稿論文は、春季研究会での発表を除き、未発表のものに限る。

（４）使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。

（５）①原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、A4判を使用することとする。

②和文、中文は、1 行40 字×40行（1ページ1,600 字）で印字する。英文はダブル・スペースで22 行とする。

③執筆分量は、以下の通りとする。

投稿原稿の別	内　容	ページ数制限
2013 年春季研究会推薦論文	春季研究会で推薦を受けた発表内容を発展させたもの	和文5ページ以内 英文15ページ以内 中文3ページ以内

また、英文原稿はAmerican Psychological Association’s Manual of Style, 4th Edition に準拠する。

④題目は12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて30字以内、英語の場合は15語（15 words）以内とする。

（６）投稿原稿には、和文論文には英語500語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4判×1 枚程度。字数は（５）に準拠する）を添付し、原稿と要旨を各3部（うち2部は複写可、匿名とする）提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。

（７）投稿原稿は2014年3月末日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、一部修正により採択、不採択が決定され、投稿者に通知される。修正再審査の場合、定められた期間内での原稿の修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿（ハードコピー）とともに電子ファイル原稿（英文要旨を含む）も提出すること。

２．　問い合わせ先／原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会事務局
〒010-1292　秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2
国際教養大学　山﨑直也研究室気付
E-mail: yama708@aiu.ac.jp

日本国際教育学会 2014 年春季研究会のお知らせ

実行委員長: 岡田昭人
事務局長: トフタミルザエヴァ・マシフラホン
事務局次長 佐々木亮

春季研究会を以下の要領で開催することになりましたのでご案内申上げます。
実行委員会は、春の研究会の主たる目的である「若手を育てる」、「研究内容についての実質的な議論ができる時間を多くとる」ことを念頭に置き、闊達な議論と相互交流がもてるような研究会にすべく努力致しますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。
特に優秀な発表は春季研究会から学会紀要へ推薦致します。

１．日時

2014 年 3 月 4 日（火）13 時 00 分～17 時 30 分　自由研究発表　懇親会等

（懇親会等の時間などは後日お知らせ致します）　　※理事会 12:00-13:00
（プログラム等の詳細は決定次第ウェブサイトにてお知らせ致します。）

２．場所
東京外国語大学（府中キャンパス）
（〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1）
※ 詳細なアクセスはこちらです　http://www.tufs.ac.jp/access/
･研究大会：留学生日本語教育センター棟　桜ホール他
･懇 親 会 ：大学会館 1 階「円形カフェテリア」

３．参加費・懇親会費等
参加費（一律）1000 円
懇親会費 4000 円

４．自由研究発表および研究会参加申し込み
自由研究発表申し込み期限 2014 年 1 月 14 日（火）
発表要旨送付期限　　2014 年 2 月 3 日（月）
参加申し込み期限　　2014 年 2 月 24 日（月）

連絡先・申し込み先：トフタミルザエヴァ・マシフラホン：mashhuraxon1@yahoo.co.jp

5. 申込要領
発表希望者は、「氏名、所属、連絡先：携帯電話番号とメールアドレス、発表タイトル、懇親会参加の有無」を、その他の参加希望者は「氏名、所属、連絡先：メールアドレス、懇親会参加の有無」をメール本文に記載の上、実行委員会事務局長マシフラホン mashhuraxon1@yahoo.co.jp 宛に電子メールにてお申し込みください。

なお、発表者（共同研究者を含む場合はその全員）は会員に限られますので、非会員で発表をご希望の方は、入会手続きを http://www.jies.gr.jp/nyukai.html にてお済ませください。入会希望者の場合は、発表申し込み期限までに入会申し込みを行い、会費が納入されていなければなりません。会費納入を確認のうえ、プログラムを作成いたします。また、発表者は、発表要旨(A4×2 枚)を 2014 年 2 月 3 日（月）までに電子メールにて実行委員会までご提出頂きます。

6. 発表する場合の発表要旨書式
本文 MS 明朝体 10.5 ポイント、40 字×38 行、余白は上下左右 25 ミリです。
1 行目からタイトルのみ 12 ポイント太字で。以降は 10.5 ポイントに戻し、
1 行空けて右詰めで氏名（所属）、さらに 1 行空けて本文を始めて下さい。

7. 学会紀要への推薦論文の提出締め切りについて
学会紀要に推薦されました場合、完成原稿の投稿締め切りは紀要編集の都合上、紀要編集委員会まで 3 月 31 日（月）（必着）となります。締め切りまでの期間が短いのでご注意願います。

8. お問い合わせ
日本国際教育学会 2014 年春季研究会実行委員会
住所:〒183-8534 東京都府中市朝日町 3－11－1
岡田昭人研究室気付
電話：042－330-5308
FAX:　042-330-5308
2014 年春季研究会用 Email アドレス mashhuraxon1@yahoo.co.jp

日本国際教育学会第 25 回研究大会のお知らせ

実行委員長　廣瀬隆人

第 25 回研究大会は下記の通り開催することとなりましたのでご案内いたします。微力ではございますが、皆様にご満足いただける大会となるよう実行委員一同努力して参りますので、ぜひご参加・ご協力をお願いいたします。

日程：2014 年 9 月 13 日（土）・14 日（日）
会場：宇都宮大学峰キャンパス基盤教育 E 棟
アクセス：JR 宇都宮駅よりバス利用（10 分程度）
（詳細は大学ウェブページ http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/access.php をご参照ください）
自由研究発表・大会参加申し込み：別途大会案内をご覧ください。

2014 Conference Information

Annual Spring Meeting:
March 4, 2014
Tokyo University of Foreign Studies　(http://www.tufs.ac.jp/english/)
For registration, paper presentation and more information, contact the Meeting organizers:
mashhuraxon1@yahoo.co.jp

25th Annual Conference:
September 13-14, 2014
Utsunomiya University　(http://www.utsunomiya-u.ac.jp/en/index.php)
For more information visit our website http://www.jies.gr.jp

日本国際教育学会　Newsletter No.25
編集発行　：日本国際教育学会　代表　岩崎正吾
http://www.jies.gr.jp
発行所　：〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12
東京未来大学 金塚基研究室　気付
e-mail: kanatsuka.motoi@tokyomirai.ac.jp
発行年月日：2013 年 12 月 10 日